

令和 7 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 21			学校名		県立結城特別支援学校								学校長名		坪松 久美子				
教頭名	茅根 正史					教頭名		松本 牧子					事務（室）長名		小藺江 秀行					
教職員数	教 諭	87	養 護 教 諭	3	常 勤 講 師	22	非常勤 講 師	3	実 習 助 手	4	寄 宿 舎 指 導 員		事務職員	3	技 術 職 員 等	12	計	138		
児童・ 生徒数	部		1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		合計		合計 クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	小学部		12	4	12	6	14	5	12	7	11	4	10	4	71	30	25			
	中学部		16	2	14	1	13	6							43	9	13			
	高等部普通科		13	9	19	5	17	7							49	21	12			
	高等部ビジネス・ライフ科		5	2	7	2	2	6							14	10	4			
															小計	177	70	54		
														合計	247					

2 目指す学校像

- ◆安全・安心な教育環境づくりと豊かな心を育む教育を推進する学校
- ◆一人一人の障害の状態等に応じた指導の一層の充実を図る学校
- ◆学校教育活動全体をとおした、キャリア教育を推進する学校
- ◆関係機関との連携を密にし、地域の特別支援教育の充実に寄与する学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学校経営	・安心・安全な学習環境：緊急時対応訓練、地域と連携した継続的な防災教育の実施、避難訓練（シェイクアウト訓練含む）、配慮が必要な児童生徒の情報共有を実施し、児童生徒が安心、安全に学習に取り組めるようにしている。	・安全点検と外部講師を活用した職員研修や安全教育を計画的に実施し、安全な教育環境の充実を図る必要がある。

	・健康の保持増進：学校・家庭連携の健康プロジェクト、体力強調月間、食育研修の実施し、健康の保持増進のための取り組みを行っている。 ・学部間連携：上級生と下級生の交流による学びあいを実施し、自己有用感や自己肯定感を育むことや、懂れる自己イメージを獲得することができるようにしている。 ・地域・企業連携：学校運営協議会での熟議を通し、学部毎にテーマに沿った地域資源を活用した活動を計画し、実施することができた。 ・働き方改革：学校行事の目的の整理や、協議内容の事前調整、業務内容の見える化により、業務や会議の効率化を図ることができた。 ・コンプライアンス：定期的な小集団での事例研修を通して、自分事として捉え、目的や目標を共有する機会を設定することができた。	・保健指導を工夫し、児童生徒が主体的に健康・安全な生活習慣を身につけることができるようにする必要がある。 ・卒業後の生活を見据えた系統的なキャリア教育の推進のため、小学部段階からの将来の進路選択に繋がる体験学習の充実が必要である。 ・学校運営協議会で、地域とともに子どもたちの学びを深める教育活動について検討していく必要がある。 ・校務内容と活動計画を明確化し、業務の見える化やマニュアル化を図り、教員のパフォーマンス向上のための効率化を推進する必要がある。 ・計画的な研修や、意見交換をすることで支え合う組織力の向上を図る必要がある。
学習指導	・障害に応じた I C T機器の活用や学習の理解を促す情報の視覚化を行い、学習場面や障害の状態に応じて I C T機器を活用している。 ・資質・能力の三つの柱を踏まえた授業計画や授業改善研修を実施し、身につけたい力を意識した指導の工夫をすることができた。	・各教科の目標に基づいた授業づくりと、学習のねらいに応じた効果的な I C T機器の活用事例を共有する必要がある。 ・評価の視点の整理をすることで、学習状況を適切に把握し、系統的な指導の充実を図る必要がある。

4 中期的目標

1 安全・安心な教育環境づくりと豊かな心を育む教育を推進する。 2 一人一人の障害の状態等に応じた指導の一層の充実を図る。 3 学校教育活動全体をとおした、キャリア教育を推進する。 4 関係機関との連携を密にし、地域の特別支援教育の充実に寄与する。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
1 安心して学べる教育環境	① 健康の保持増進のための実践力の向上 ② 地域の関係機関と連携した安全能力の育成 ③ 児童生徒が互いに認め合い励まし合う集団づくりの推進

2. 学習活動	① 一人一人の学習状況に応じた系統的な指導の充実 ② 学習のねらいに応じた I C T機器(タブレット端末) 活用の推進 ③ 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の実施
3. キャリア教育	① 小学部段階からの系統的なキャリア教育の推進 ② 自己理解を深め、主体的な進路選択を促す指導の工夫 ③ 地域や企業と連携した教育活動の充実 (コミュニティ・スクール)
4. センターの機能	① 幼保、小・中学校、高校への相談支援体制の充実 (特別支援教育推進体制充実事業) ② 専門家や地域の関係機関との連携強化 (地域連携体制構築事業) ③ 地域への特別支援教育に関する積極的な情報発信
5. 働き方改革 コンプライアンス確保	① 教員のパフォーマンス向上を図る効率化の推進 ② 目的を共有し、支え合う組織力の向上